

令和6年3月21日

館山市中央公民館長 様
館山市地区公民館長 様

館山市公民館運営審議会
答申検討委員会
副委員長 植野 章子

公民館再編に向けた今後の公民館のあり方について（答申）

令和5年7月25日付け館教公第11号をもって諮問のあった公民館再編に向けた今後の公民館のあり方について、次のとおり答申します。

答申

本答申検討委員会では、館山市中央公民館長及び各地区公民館長から「公民館再編に向けた今後の公民館のあり方について」の諮問を受け、中央公民館運営審議会と各地区公民館運営審議会から選出された答申検討委員会を設置し、審議を重ねてきました。

本答申では、諮問の要旨である館山市公共施設等総合管理計画等に位置付けられた「利用者の安全確保と修繕コストの抑制」「集約化等による総量縮減」「施設の魅力向上・経営感覚を持った施設管理」の3つの管理方針のうち、施設の魅力向上を図る「人生100年時代に向けた今後の公民館のあり方」についての具現化を図るため、審議を進めてきました。

施設の老朽化に対する今後の公民館再編の議論にあたっては、先行的に進められている小中学校再編による校舎等の有効活用や、民間資産や未利用資産の活用など幅広い視点に立ち、地域の人口動向や特性に応じた施設の集約・再編、複合化等の適正管理と財政負担の軽減の重要性などを考慮し、今後は、学校再編や他の公共施設と同様に、公民館においても再編はやむを得ないと考えます。

しかしながら、再編後の公民館にあっては、公民館の経営方針や事業方針を踏まえ、また、人生100年時代を見据え、高齢者から若者まで全ての市民に活躍の場があり、元気に活躍し続けられる社会、自分らしく暮らすことができる社会が実現できるよう期待します。

1. 「人と人をつなぐ学びの旅」「身体と心の健康」を支援する学習プログラムの開発

人生100年時代を見据え、高齢者の学習支援をめぐる「高齢者福祉・社会福祉」と「生涯学習・社会教育」との間に新たな関係性を生むことにより、こうした構図の中で高齢者に対する生涯学習固有の意義を探っていくことが求められています。

高齢学習者の特性として、孫世代との交流など多世代交流による「つながり」が重要な学

習課題となっています。これに加え、講座やサークル活動を通じて「人とつながる」ことがフレイル予防となり、仲間同士で出かける自然散策や歴史探訪などは、その習慣化によって筋力・歩行機能を保持するロコモ予防に結び付くことが期待できます。

こうした高齢者や地域の特性を活かした学習プログラムは、身体のみならず、心の健康にも大切とされ、今後の公民館講座を進める上で重要なポイントとなります。

2. 人と地域をつなぐ「学びの循環」幸齢者を地域の主役に

市内各公民館で活動する公民館サークルは300団体、会員数3,500人を超え、書道や絵画、音楽、社交ダンスなど、様々な活動が行われています。学びを通じて「人と人をつなぐ」サークル活動は、本市の生涯学習・社会教育の中心的な存在でもあります。

人生100年時代を見据え、仲間づくりの喜びや楽しさを次世代へ伝え、自ら有する知識や経験を社会に還元しつつ、より良い社会をつくる主役として活躍できる場やしきみ作りが重要です。

公民館を拠点とした新たな学びの仕組みを「さ〜くる宅急便」と銘打ち、学校や保育、医療・福祉の場へサークル会員が出向き、あるいは公民館へ招き入れ、共に学び合う「学びの循環」の創造を期待するものです。

3. 公民館講座のフェーズフリー化による「防災学習のススメ」

災害時の避難所では、個々の避難者への対応から一定のグループ（つながり）を作り、求めに応じた物資の供給や血栓予防の健康体操など、グループ内での「健康と心のケア」活動が試みられています。

公民館講座をデザインする上で、日常時や非常時にも役立つフェーズフリーの観点が有効と考えられます。各種講座に健康体操などを取り入れることや、スマートフォン講座などを通じて、「WEB版防災マップ」の見方や活用方法を身に付けておくことや、災害時の避難経路を想定した自然散策やウォーキング教室は、実践的な防災学習につながることを期待できます。

4. 健康と幸福感が得られる居場所づくり

人生100年時代において、個々の年齢や心身状態に応じて複数の居場所（サードプレイス）があることが重要です。外に出て散歩がてら、寄り道や井戸端会議ができる「交流・おしゃべりができる居場所」など、子どもや親子、高齢者や障がい者など全ての人が、日常の中で「健康と幸福感（Well-being）」を得られる居場所づくりが重要となっています。

従来、学びの場として活用されている市内各地の公民館や図書館、博物館、スポーツ施設などの生涯学習施設をはじめ、介護・福祉の拠点とする集会所などの「通い場」などをつなぎ合わせ、どのように人と人をつなぐ暮らしの空間（居場所）をデザインしていくかが問われています。